

# 熊本地震を教訓とした本市施策への対応

熊本地震を踏まえ、特に顕在化した課題である「物資」「避難所」「被災者支援」をテーマとした庁内ワーキンググループ（WG）を設置し、本市防災施策への対応を検討。

## 物資 WG

### 【主な課題／教訓】

- 多数の避難所において発災直後から物資が不足
- 物資集配拠点に救援物資が滞留
- 被災地での物資ニーズは刻々と変化

### （対応方針等）

- 発災後 3 日目までの必要最低限の物資の備蓄及び避難所への分散備蓄を推進
- 備蓄倉庫、緊急物資集配拠点が確実に機能するため、施設に必要となる機能を定めた基準を設定
- 民間倉庫の活用、物流業者と輸送・仕分け等の協定や物資供給協定など、民間事業者との連携強化を推進
- ICT 技術を活用した避難所におけるニーズ把握システムの導入について検討

## 避難所 WG

### 【主な課題／教訓】

- 避難者の自主運営による円滑な運営体制の確立が重要
- 感染症等を予防し、災害時要援護者に配慮した環境整備が必要
- 車中泊避難等について、避難者等の実態把握が困難

### （対応方針等）

- 発災後 3 日間で市職員の支援のもと、避難所運営組織を確立し自主運営を行うことができる体制の整備
- 避難スペース等における土足禁止の徹底や、ペットの居住空間の分離など衛生対策を強化
- 段差解消に必要な簡易式スロープを配備するとともに、福祉避難所の開設手続き等を整理
- 車中泊避難者の健康被害防止のための注意喚起を強化するとともに、実態把握や具体的な対応については、引き続き検討

## 被災者支援 WG

### 【主な課題／教訓】

- り災証明書の発行業務の遅れにより、その後の被災者の生活支援に影響
- り災証明書の基礎知識や各種支援策について、対応職員は平時より十分に理解することが必要

### （対応方針等）

- 災害救助法適用の有無により、異なる証明書（「り災証明書」「被災証明書」）の一本化に向けて制度変更
- 「被災者台帳」を導入し、各種調査や支援業務を連結して円滑に処理するシステムの導入について検討
- 派遣実績をもとに、調査にかかる時間や必要人員を整理し、平時より e ラーニングできる研修体制を整備



H  
28  
年  
度

H  
29  
年  
度

WG にて整理・検討された事項を踏まえ、大規模災害時における災害対応能力の更なる向上を目指して、市災害対策本部の運営体制や機能強化等の見直しを行い、本市危機管理体制の強化を推進。

### 災害対策本部機能強化に向けた検討調査

機動的な災害対策本部の運営を行うための、適切な規模の空間確保と機能強化に向けた検討を実施



### 熊本地震を教訓とする災害対応策の検討調査

時系列で変化する災害対応に適切に対応するため、業務が集中する区役所（区本部）の危機管理体制の強化に向けた検討を実施

